

会 議 録

1 会議の名称

令和元年度 第3回 川根本町立学校設置適正化及び教育のあり方検討協議会

2 会議日時 令和元年8月30日（金）午後7時00分から午後8時45分まで

3 開催場所 川根本町役場本庁舎 3階 会議室

4 出席した者の氏名

協議会委員 鳥居進委員、太田たみ子委員、森下洋一委員、坂本政司委員、森下仁委員、鈴木絵理委員、上野奈世美委員、松下陽子委員、笹木秀明委員、

※ 山下初副会長、井澤史子委員は欠席。

研究会委員 梅澤収委員長

事務局 大橋慶士教育長（会長）、森下育昭教育総務課長、
宮島明利課長補佐兼教育総務室長兼管理主事、和田美代史指導主事
ほか 教育総務課職員2名

傍聴者 3名

5 議題

協議（報告事項）

(1) あいさつ

- ・ 大橋慶士教育長

(2) 協議事項

- ① 「Society（ソサイエティ）5.0」という社会（あなたのところにもこんな未来が！？）
政府広報映像視聴
- ② 「新時代の学びを支える先端技術のフル活用に向けて～柴山・学びの革新プラン～」
について（柴山昌彦文部科学大臣）映像視聴
- ③ 「2020年度 子供の学びの進化 よくわかる 新学習指導要領」内閣府映像視聴
- ④ 「貝ノ瀬滋文部科学省参与に聞く～コミュニティー・スクール～」映像視聴
- ⑤ 令和元年度 教育のあり方検討協議会事業計画書（案）について
- ⑥ 川根本町の教育～人口減少地域における特色ある教育づくり～
- ⑦ 「これからの川根本町の教育に係る意見交換会」（仮称）の開催について
- ⑧ 質疑応答

6 会議資料の名称

川根本町立学校設置適正化及び教育のあり方検討協議会事業計画書（案）（資料1）

令和元年度 川根本町立学校設置適正化及び教育のあり方検討協議会会議資料（資料2）

「これからの川根本町の教育に係る意見交換会」（仮称）資料（資料3）

川根本町教育大綱（資料4）

2019 川根本町学校教育ビジョン（資料5）

川根本町学校教育ビジョン H31に向けたエボリューション提案（資料6）

7 発言の内容

(1) 協議会会長あいさつ

- ・ 大橋慶士教育長

第3回教育のあり方検討協議会に出席いただきありがとうございます。お仕事でお疲れのところ本日の協議会よろしくお願ひしたい。今回で3回目の協議会となり、5名の委員の皆さんが交代されたため、これからの教育がどう変わっていくのかをご理解いただき、共通の土俵に立ったうえで、これからの学校のあり方をお考えいただくようお願いしたい。私自身は、今後はおそらく単なる統廃合ではなく、学校が地域を巻き込みながら教育をしていくようになっていくと考えている。文部科学省もコミュニティ・スクールということで、学校運営共同体として地域の方を巻き込んで運営していく方法に変わってきている。学校制度も変わっていて、小中一貫校の中でも、一体型、連携型など様々な形態がある。そのような中で、持っている資源を最大限に活かした教育を推進するように考えていかなければならない。その中には、教育を進めるうえで、ICT機器を活用した教育や遠隔システムを活用した教育など多彩な教育ができることになる。川根本町にあった、納得のいく教育を考えなければならない。教育委員会で映像を用意しているため見ていただいた後、川根本町の教育を提示させていただくためそのようなものを前提として今後のこの町の教育をどうしていけばいいのかを議論していただきたい。

- ・ 「Society (ソサイエティ) 5.0」という社会 (あなたのところにもこんな未来が!?) 政府広報映像視聴
- ・ 「新時代の学びを支える先端技術のフル活用に向けて～柴山・学びの革新プラン～」について (柴山昌彦文部科学大臣) 映像視聴
- ・ 「2020年度 子供の学びの進化 よくわかる 新学習指導要領」内閣府映像視聴
- ・ 「貝ノ瀬滋文部科学省参与に聞く～コミュニティー・スクール～」映像視聴

(2) 協議事項

①副会長の指名

大橋慶士会長から、副会長に、地域住民の代表としてご就任いただいている山下初委員を指名 (協議会設置要綱第3条第5項)

②令和元年度 教育のあり方検討協議会事業計画書 (案) について

事務局より資料1に沿って説明

- ・ 今年度は、研究会を3回から4回程度、協議会を同じく3回から4回程度開催し、今年度中にある程度の方角性を示したいと考えている。また、その協議に向けて、保護者の皆さんや地域住民の皆さんに集まっていただき、川根本町の教育の現状をご理解いただくとともに、今後の児童生徒数の推移等を説明したうえで意見交換会を開催したいと考えている。

会長（教育長）：次に、川根本町の教育について説明する。

③川根本町の教育～人口減少地域における特色ある教育づくり～

事務局より資料2、資料4、資料5、資料6に沿って説明

- ・コミュニティ・スクールについては、努力義務化され2022年にはどの学校にも運営協議会を創って地域の学校としてスタートするように県から指導されているため、準備をしなければならない時期になっている。学校教育ビジョンの制定から5年目、教育大綱の制定から4年目を迎えている。エボリューションの計画ということで、毎年の学校教育を進化（深化）させていこうという目標を先生方と共有している。先程の柴山プランについては閣議決定され学校現場に下りてきている。確実に学校の教育は変わっていく。先生方も覚悟して子どもたちのためにどのような教育を行っていくかを考えている。新しい時代を迎える中で、地域の中で子どもたちのためにどういう学校を創っていくか、今までのような一斉授業ではなく、新しい学びの中で、どういう学校を創っていくかを真剣になって考えていかなければならない。特に、コミュニティ・スクールが出てきたが、街の中の学校と違って中山間地では学校がコミュニティーの核であるので、コミュニティーの核として地域のために、どのような学校を創っていくかを踏まえて議論していくように宿題ももらっている。それがこれからの学校教育となっていくため、これまでのようなただ学校をくっつけて終わりというような議論ではなく、子どもの姿が見えた議論、地域の姿が見えた議論をしていかなければならない。
- ・学校教育ビジョンが5年目を迎え、ある程度の成果を上げている。昨年度静岡大学の学会に呼んでいただき町の教育、子ども達の頑張りを発表する機会をもらった。それ以来、視察をいただき、外部の方に川根本町の子ども達の頑張っている姿を見ていただく機会が多くなった。2月には静岡大学の研究チームが来ていただき、5月には福井県の南越前町の教育長さんが、7月には東京大学の先生方が来てくださり、町の教育のシステムをお話しし評価していただいた。何よりも評価していただいたのは子どもたちの学ぶ姿だった。先を見通して取り組んでいる中で、子ども達が自分の言葉で表現する力が増えてきている。伸びてきていると言ってくれている。5年目を迎えた成果を基にこれからのあり方を考えていただきたい。教育大綱においては、子どもが育つ町を育てようとしている。0歳から18歳までの教育をどうしていくかということで特徴を持たせている。視察等で来町いただいた時に見ていただいている。エボリューションの計画について、掲載の写真は、新しい教育の先進地に、町内の教員に教育総務課職員と一緒に視察に行ってください勉強してもらっている。新しい学びにより生き生きと学んでいる子ども達の姿を共有して、これからの教育を考えながら進めており、今の学校の姿がある。教育ビジョンの成果が確実に出ている。この上に何を乗せていくかという視点で考えていただかないと子どもたちの今までの頑張りが無駄になってしまう。色々なパターンがあることをこれまでに説明した。現行の6つの小中学校で成果を基にやっけていながら、小中一貫校や義務教育学校をやると、複式学級は解消される。中学校の教員と小学校の教員を合わせた教員が学校につくため、複式の学級にも必ず二人の担任の先生がつくことになる。統合した場合にはどうなるかというようなシミュレーションも昨年度お示しし

た。資料の右下の部分がこれからの新しい学びになる。ビデオの中で、「主体的で対話的で深い学び」ということが出てきたと思うが、そのさらに先は、「カリキュラム・マネジメント」と「スタディログ」となる。カリキュラム・マネジメントとは、目の前の問題を自分で見つけ出してそれを自分の力を駆使して解決していく探究型の学習がこれからの学校の主流となる。スタディログとは、学びの個別最適化とあって、小学校・中学校の学びの記録が高等学校に送られ、高等学校の学びの記録が大学に送られていくシステムが始まることになる。川根本町においては、キャリア教育として先進的な取り組みを行ってきたが、それが本格的にスタートすることになる。これまでの同じ学年が一斉に同じ勉強をするという時代ではなくなる。その子にあった学習を積み上げて、その子の将来に向かって必要な学習を子どもたちが選択していく時代となる。それに対応した学校を小学校・中学校とも創っていかねばならない。そのような時代が確実に来ている。先生方にも勉強していただき、学校づくりの中で生かしていただくという取り組みをやっているところである。コミュニティ・スクールについては、先ほど説明したが、全小・中学校に設置するように教育委員会が努力することが法律で決められている。ただし、全小・中学校といっても、中学校単位で運営協議会を創ることもよくなっている。そのほかのパターンもある。川根本町にフィットした形のコミュニティ・スクールを創ることができるので、地域のために、子ども達のためにどんな学校をつくるかの準備が来年から始まっていくというイメージを持っていただければと考えている。資料の人数であるが、2024年入学の子どもについて、現在2歳児となるが、昨年は13人だったが、今年調べたら12人になっていた。ここが一番少ない学年となる。昨年度生まれた子どもは18人となる。この子どもたちがそのまま入学したとしての数字を入れてある。2学年合わせて8人以下となると1年生から複式となる。その人数が何年後かに来ることになる。これが現実である。そのような中で議論が進められていく。

私たちがこれから考えなければならないことを3つ示してある。例えば、今すごく成果が上がっているため、ここまでは今の学校教育ビジョンを継続していき進化（深化）させていこう。しかし、子どもの数や色々多面的に多角的に考えた時に、学校がこうなってしまうということが見えたところで、小中だけではなく、保育園や幼稚園も含めた一貫教育であったり、川根本町型の義務教育学校を創っていくなど、そのような方法も一つの例として挙げられる。見通しが立つかどうかがとても大切だと思う。

現在の小規模校は地域の中でとても大切な学校であり、それを進化（深化）継続させながら、色々な制度を取り入れて、子ども達の数を確保しながら、川根本町にあった教育を進めることも一つの方法だと思う。地域の学校として存続させていくことも一つの方法。これもメリットがたくさんあると思う。川根本町のような町域が広い中山間地域は登下校の問題が出てくる。地域の学校として生かしていくことも大切な考えではないかと思う。

ある時期もしかしたら全てを一つに統合させなければならない時代も来るかもしれない。それについても考えておかなければならない。でもそれは50年後かもしれない。きちっと小規模校の良さを生かした川根本町ならではの取組を展開したうえでこのような年が来るかもしれない。先ほどグラフを見ていただいたとおり、中学校、小学校の規模は、まだ5年6年今の規模を維持しながら今の特色ある教育を続けていくことも可能で

あるという読み方も出来る。その辺り、現実には現実としてしっかりと見つめたうえでどんな教育をやっていくか、どんな学校をやっていくかといった視点で考えていただきたいということで、研究会の皆さんにもお願いしているし、研究会で研究したものをこの協議会の場でお示ししたいと考えている。昨年度も同じ説明をさせていただいたが再確認ということでお示しした。今年度末にはある程度の見通しを立てたいと考えているため説明させていただいた。

会長：補足をしておく、コミュニティ・スクールについて、静岡県の公立高校のコミュニティ・スクールは富士の市立高校だけで他にはない状態であった。しかし、県教育委員会に対してコミュニティ・スクールができるようにしてほしいと申し入れをしてきたところ、県立高校で今年度から3校（静岡城北高等学校、松崎高等学校、天竜高等学校）で試験的に実施をしていくということを聞いた。和歌山県においては、県内の高校全てでコミュニティ・スクールが運営されているといった県もある。地域ぐるみの学校を進めていく必要がある。次に、「これからの川根本町の教育に係る意見交換会」（仮称）の開催について事務局から説明いただく。

④「これからの川根本町の教育に係る意見交換会」（仮称）の開催について

事務局より資料3に沿って説明

・川根本町の子ども達は、町の教育によって成長している中で、川根本町の教育を理解していただけていないことが伺えるため、今年度川根本町の教育についてご理解いただき、今後の教育についての意見交換会ができないかと考え企画した。内容的には、本日見ていただいた映像をご覧いただいたとことで、現在の川根本町の教育、例えばR G授業であるとかICT機器を活用した授業などについてパワーポイント等を使って説明させていただく。また、児童生徒の推移等を説明させていただいたところで、色々な意見交換ができないかと考えている。こちらのほうには、幼稚園、保育園、小学校、中学校の保護者の皆様や地域の皆様にお集まりいただき、現在の計画では、小学校区単位として町内4個所で開催したいと考えている。開催場所等については資料のとおり開催について考えている。こちらの意見交換会の中で、保護者の皆様方や地域の皆様方から色々なご意見をお聞かせいただき、これをもって、これからの川根本町の教育についての検討の参考としたいと考えている。川根本町の子ども達は成長できている。そちらを保護者の皆様や地域の皆様にご理解いただきたいと考えている。

⑤質疑・意見交換

会長：事務局からビデオやそれぞれ説明させていただいたが、これから、質疑、意見交換に移らせていただく。今日のビデオ、説明等を踏まえてわからない点等があったらその点も含めて意見をいただきたい。

委員：意見交換会について、映像視聴はいいと思うが、これらを全てやると1時間ぐらいかかってしまう。少なくとも7時30分から開催するなら、30分ぐらいの説明で、後1時間を意見交換の時間にしないと、せっかくの意見交換会が交換とならず視聴・説明会になってしまう。

委員：意見交換会の場所の案について、役場の総合支所と山村開発センターについてはイスとテーブルがあるが、学校の体育館にはイスとテーブルが用意されるのか。それは、意見交換会は、お互いに意見を交換するという会になる。そうすると、説明する人たちは、プロジェクター等を使って説明するからテーブルが必要となる。会場に来られた皆さん要するに保護者の皆さんはイスに座っていると、単なる説明会となってしまふ感じがする。そのようなシチュエーションが大切になると思う。今日の会議は口の字になっているが、このようにやると、体面に座っていると緊張感も生まれるため、その辺の場所や雰囲気づくりが大事になるのではないかと思います。必ずしも南部小や第一小でやらなくても、保護者の皆さんや地域の皆さんは車で来ると思うので、山村開発センターでも良いのではないかと思います。色々な意見が出やすくなる雰囲気づくりも大事なのではないかと思つた。

事務局：事務局としては、保育園、幼稚園、小学校、中学校の保護者の皆様向けには、学校や保育園、幼稚園からチラシを配布いただきたいと考えている。地域の皆様方へは新聞折込などを活用して周知したいと考えている。今ご指摘いただいた事を踏まえて検討したい。

研究会委員長：今お聞きしていて、説明で終わってしまわないためには、車座になって、川根本町の子育てとか教育についてざっくばらんに発言していただけてまとめていかないと、色々な意見が出てこないと思うので、どれくらい来るかが想定できないが、例えば広めの教室のできるのであれば、各学校の教室でやっても良いと思う。少なくとも30分以上川根本町の教育についてどのように思っているかを言える機会があつて、そのまとめみたいなものを発表してもらふようなことも必要ではないかと思う。

会長：非常に難しいのが、直接自分に利害がある内容では多くの方に集まってもらふことができるが、これからの学校づくりをどうするのかというようなことになると、直接的な利害が無い為厳しいかもしれない。家庭教育学級のような事業だと、半ば強制的に集めることができる。開く時間帯とか曜日とかの設定の仕方によっては不満に思ふ人も出てくる。どのように設定するかが難しいことになる。関心のある方は来るが、関心のない人は来ないこともありうるため悩む点である。

研究会委員長：私の考えは、皆がいっぱい参加というよりは、来てもらった人が日頃思っていることを言うてもらふことが大切であると思う。それを基に周知していけば次のステップがあると思う。多くの人を集めてやったことの実績を残すことだけだと行政の都合で動いていることになってしまう。行政の人はサポートする役目でそのような会は成功しないのが当たり前で、厳しい状況の中で住民の人たちが何をやりたいかを言ってくれる人が出てきて、そのような方を中心に考えていこうということを伝えていくことによつて自然に力が出てくると思う。

会長：意見集約をどうするかがとても大切で、アンケートを取ってもそうであるが、皆の意見の合意は何なのかが問題である。集まった人だけの意見が皆の意見、考え方なんだということではないと思う。自分に利害のある方が参加すると思われるため、それをもってその意見ですかということにはならないと思う。

研究会委員長：私は、意見集約はしなくても良いと思う。本日資料を見たが、財政力があるうちに施設一体型にして新しく学校の建築とかをやっていくことがいいのか、そうではなく、今の状況を継続した後でやるのが良いのかは微妙な問題で、住民の意見を挙げたうえで、決定するのは町長さんや教育長さんになると思う。その決定のための材料としての意見となると思う。基本的に学校統廃合の問題は、最終的には教育委員会が決めることになると思う。住民の合意のプロセスをどうするのか大切であるため意見交換をする必要があると思う。

委員：日程表を見せていただくと、色々な方の意見を聴くためであると思うが、今子育てをしている世代が参加してほしいと思う。そういうところの意見を町のほうでも吸い取っていただきたいと思っている。午後7時30分から午後9時という時間帯が曜日にもよるが子育て世代の母親には参加しにくい時間帯になると思う。例えばこれを週末にするとか、ほとんどの方が共働きの家庭が多いと思うので、その辺も考えて、大勢の人の参加が良いということはないと思うが、意見を持っている人からの意見を吸い上げるためにはある程度の参加がほしいと思うので、時間帯とか曜日を検討してほしいと思う。子育て世代のお母さんが思っていることもあると思うので、どこでその思いを伝えられるかと思った時に、参加しやすくするために時間帯とか開催曜日は大きいと思う。

事務局：提示した案は素案である。夜間のほうが参加しやすいと考えたためそのようにした。平日の昼間だとお仕事もあるとも考えた。夜間にした場合、7時だと仕事の関係で早いのではないかと考えたため7時30分とした。一番参加しやすい時間帯、曜日としたいと考えている。そして多くの方から意見を聴きたいと考えている。

委員：2歳になる孫がいる。あと5年で小学校入学になるので、息子夫婦にも参加させたいと思っている。時間帯、開催曜日は大切だと思う。

研究会委員長：設定が小学校区となっているが、どの学区の時に行っても良いとするのかが大きいと思うが。

事務局：その点についても、どこに行っても良いと考えている。鳥居委員が言われたが、学校の体育館だと机、イスが無い為、山村開発センターや役場総合支所等にして机、イスを使って行うこともできるとも考えているので、逆にそのような意見を出してほしいと思う。色々な意見から、折衷案で、夜出やすい方もいるし、昼間出やすい方もいると思うので、選択の範囲を広げて多くの方から意見をいただけるような案ができていくと思うので、そのような声が貴重であると思う。時間帯とか曜日とか場所を出してほしいと思

う。基本的には、夜と昼の2部制にしていきたいと思う。

委員：もう少し場所とか時間帯とか選択肢を多くしてほしいと思う。昼間などは、仕事の都合を付ければ、せっかく意見交換の場所があるのであれば都合を付けることもできるので、4つだけだと厳しいと思う。

研究会委員長：研究会の中では、幼児教育の代表の方から危機意識を持っている委員もいたが、子ども達がどんどん少なくなっているため、しっかりと考えてほしいというお話もあった。この意見交換会は、川根本町の教育に係る意見交換会となっているが、子育てとかの問題についても意見を聴くことが出来るのか。少なくとも学校に行く前の保護者の方に来てもらって、これからの幼児教育も含めての意見を言ってもらったほうが良いのではないかと思う。

委員：一つ思ったのが、この意見交換会が川根本町の教育に係る意見交換会なのに、学校側と住民側だと、今生まれている0歳児から幼稚園とか保育園とかに行っていないお子さんたちの保護者の方にも聞いてもらいたいと思っている。川根本町の学校に通わせたいと思ってもらえるようにしていかないと保育園や幼稚園の時に出てしまうかもしれない。その「かもしれない」を小さくしていくことも必要であると思う。それが人口流出に繋がってしまうし、学校の現状を見ていて思うことなので、2ヵ所の子育て支援施設を利用している親御さんたちからも意見を聴く必要もあると思う。色々な意見をひとつずつでもいいからつかみ取って、何かしら反映してもらいたいと思う。その意見が通らないかもしれないが、それを聴いてメリットデメリットがあるかもしれないが、デメリットならデメリットで、良い方向に変えていこうというお話をさせていただきたいと思う。

委員：子どもが大きくなっているため、小学校・中学校・高校と繋がっていくことになるため、保育園や幼稚園の保護者の方や未入園のお母さん方から意見を聴く機会があれば良いのではないかと思う。

委員：基本的には委員の皆さんの意見と同じであるが、会場の話とか時間帯を考えて、例えば、土日も併せて1週間の期間を設けて都合の良い時間帯に来ていただくようなことも良いのではないかと思う。また、子どもからの意見も聴いてもおもしろいのではないかと思う。大人だと固まった意見になってしまうのではないかと思う。

委員：委員の皆さんの意見を聞いて、どの意見ももつともではないかと思う。できることから、一定期間いつでもどこでも可能なようにできればありがたいのではないかと思う。会議のように固くすると、言いたいことが言えなくなってしまう可能性もある。ざっくりばらんに意見が聴けるような交換会になればと思う。

委員：この問題は、保護者の皆さんを中心に話をさせていただければと思う。今色々なところで、都会から田舎に移住してきて子育てをするようなことをテレビで見たことがあるが、

通学も大変なので、今後どのような時代になるかわからないし、色々な意見を聴いて、また、学校に行っていない子どもの保護者からの意見も貴重になると思う。

研究会副委員長：昨年度設置したあり方協議会について、今どちらかというところと教育のあり方についてビデオでの説明があって、先ほど事務局からこれからの学校の形についての説明もあったが、意見交換会でどのような意見が出るのか、どういうところから意見が出されていくのか、参加させていただく楽しみとなると思う。これからの教育についての意見交換会をする中で、少人数の子ども達に対する大人の関わり方によって子どもを良くも悪くもしてしまうと学校現場にいて思う。大人の関わり方がポイントであり、子ども達に目が行き過ぎてしまう、手を掛けすぎてしまうことが子どものたくましさや自立が弱くなっていくことになると思う。先ほどビデオで見てまた説明の中の探究型の学習から自立がベースになっていくので、そのところは意見交換会の中でも自立というのが大人の関わりで変わっていくかということを出発点で発言できればと思う。

事務局：ご意見をたくさんいただいた中で、教育ではなく子育てという視点で、毎年微調整をしている教育大綱の中にいただいたご意見が反映されてくれば良いのではないかと思います。そのためには、色々な世代の子どもを持つ方々から色々なご意見をいただけるような場を設定していきたいと考えている。そのために、多様な選択の場所も選び、保育園の担当や福祉の担当などと役場内で連携をとって、そのような場所があればこちらから出向いて話を聴きとるような場もあると多様な意見が聴きとれていって実際に町の施策の中に盛り込まれていって、教育として学校現場に盛り込まれていくというイメージでいる。

委員：選択肢が多すぎてしまうと、行って一人だったとなるとどうかと思う。

事務局：色々な方からご意見をお聞かせいただきたいと思っているため、どうやったら参加しやすいのか。イメージとして、あまり広げてしまうとバラけてしまうので、ある程度の選択の余地があるところで検討したいと思う。それでも参加できにくい方々のためには、こちらから足を運んで聴いて回るみたいな形を丁寧にやらせていただく中で、参加いただいた方々から話を聴かせていただくといったイメージでよろしいか。

委員：いきなりあり方というようなものを持つてくるよりは、自分の子どもが学校に行くにはこのようなものが良いとか、難しい話ではなく、ざっくりばらんな保護者の思いを聴くぐらいでそれを吸い上げるようにすれば素直な気持ちが出てくるのではないかと思います。

事務局：今川根本町でやっている教育を分かっていたいただきたいという気持ちがある。子ども達が成長している姿を理解していただきたいと思っている。

会長：保護者の不安感だとかを吸い上げた中で、不安感を解消するにはこのようなシステムでできるような点を提示すれば良いのではないかと思います。そのような意見を吸い上げる

場としたい。

研究会委員長：協議会のやっている内容に関心を持っていただいてどうなるのかを見届ける切っ掛けになってもらえば良いと思う。

会長：21世紀型の教育をどうやったらよいか、地域での教育をどうするのかという意見は持っているが、皆さんが言われるのは不安感などの問題を解決するのにどうするかを組み立てたいと思っている。その時どうするか、物理的な空間としての学校、ソフトとしての学校があるので、片方だけを考えてはだめだと思うので、それをうまく融合した形のこれからの教育を考えたいと思っている。基本的には、住民の合意の下で後悔しないのであればそれでいいのではないかと思う。将来を心配する考えもある。この問題は、統廃合で考えてしまうと後戻りできないと思う。

研究会委員長：秋田の学会の研究大会に参加したが、秋田はもっと進んでいて、2000年頃に統廃合をして、さらなる統廃合が必要な段階になっている。施設一体型で先手を打って新しい学校を創るだけの余力と住民の数があるうちにやっていく方法を選ぶのか、ぎりぎりまで今の体制でやれるだけやって自然に任せればよいといったところを皆が考えてそのところの住民の方がどう願うかを教育長さんと町長さんが議会の同意を得て決めるということで、そのところを皆で考えてもらう機会として研究会の座長をやらせてもらっている。

事務局：どこに重きを置いてというところの中で、たくさんの人の意見を聴きたいというと、足が向くような、来て良かったと思える会にしていくことが先に繋がっていくと思うので、そういうスタンスで再検討させていただきたいと思う。その中に、川根本町でやっていることを入れていくように工夫したいと思う。本日いただいた意見を大切にしながら少し検討しお示ししたいと思う。

委員：保護者でもまだRG授業を見たことがない。RG授業の雰囲気分からない。子ども達しか体験をしていないため、体験してきたことを聞くことしかできていない。RGの授業内容、どういうことをやっているのかニュアンス的には分かっているつもりではいるが、RGの場面を見ていないので、それを見せていただくと嬉しいと思う。RGの授業参観を行ったことはないのか。

研究会副委員長：いつでも参観できるようになっている。

研究会委員長：案内は差し上げていないのか。

委員：本川根小学校ではRGの授業を見れる機会がある。

事務局：どこも同じようにやっているのではないかと思う。

研究会副委員長：学年部によってやり方が違うので、第一小学校で5・6年生がやる時には他の学校で別のグループがやるとか、年間4回なので、タイミングで見ずらい時がある。

委員：その通知があるのか。R Gの授業をやることを子ども達から聞く。R Gの時にはお弁当の時なので、その関係で聞いている。特に新しく入ってきた低学年の保護者の方々はR Gの授業を見に行行って良いことを知らないし分かっていないと思う。

研究会副委員長：学年だよりでは、どこ小学校でR G授業をやるかをお知らせしているため、町の教育会では特に案内を出していない。

事務局：あと2回あるので、保護者の方や地域の方にどのようにやるかを示して案内を出したいと思う。来ていただく方には子どもたちの姿を見ていただきたいと思う。R Gの計画は年度末にはできているため、来年度の計画を示して見ていただくように案内したいと思う。貴重なご意見をありがとうございました。見ていただいたうえでその場でご意見をいただくこともすごく良いことではないかと思う。

会長：今日はここで閉会とする。フラットにご意見を言っていただくことは良いことだと思う。お疲れ様でした。

午後8時45分閉会